

Who Cares? 誰が私たちの面倒をみるの?

朝日・大学
パートナーシップ
龍谷大

朝日・大学パートナーシップシンポジウム「Who Cares? 誰が私たちの面倒をみるの? 介護現場のいま」(龍谷大学、朝日新聞社共催)が20日、京都市伏見区の龍谷大で開かれた。日本は40年後、人口の4割が65歳以上となる超高齢化社会に突入するという。介護現場に多くの外国人労働者が参入する世界の情勢を踏まえ、日本の進む道を探った。

介護職場に魅力・誇りを

〈基調講演〉



上野 千鶴子さん

介護の人手不足が問題となり、ケアの担い手が日本に移動するというのが起きています。だが、人手不足は作られた社会問題だ。責任が重く、夜勤もあるのに低賃金で離職率が高い。介護福祉士有資格者の休眠人材は30万人もいる。悪条件で働く人はいない。だから外国人頼み、とは短絡的だ。

海外依存、送り出し国に代償

今回の外国人ワーカーは政府間の経済的な取引で生まれた。日本製品をアジアで売る見返りにアジア諸国が「輸出」したい人材を受け入れる。滞在期間は上限4年。この間に国家試験に合格すれば無期限に滞在できるが、不合格なら帰国と条件は厳しい。日本政府は1人260万円を負担するが、税金から出たこのお金の使い道は政府外郭団体での研修費用だ。一方、施設側は1人60万円のほか研修費用なども負担する。外国人は業務

日誌の読み書きなど情報伝達が難しく、介護・看護事故のリスクもある。日本人の離職率が高い中、4年間辞めない人材を確保できる利点もある。だが、教育や福利厚生コストをかければ施設側は4年以上働いてもらいたいだろう。4年後の外国人の国家試験の合格率をどう想定するか。政府は真剣に考えているのだろうか。今後保険外市場が拡大し、安い価格でのサービス需要は増えるだろう。高価格サービスは本人有資格ワーカーにサービスは無資格ワーカーに、という介護業界の二重化が進むかもしれない。局は価格破壊につながる保険制度の空洞化が建設など費用は日本の方が安い。ワーカー移動するのではなく、年齢者を輸出する「一時は介護のグローバル化」の連鎖だ。

パネリストのみなさん

- 上野千鶴子 東京大大学院教授
- 稲葉 敬子 高齢社会をよくする女性の会理事
- 中江 幸一 社会福祉法人神戸海星会研修責任者
- 山崎イチ子 花園大特任教授
- マリア・レイナルドス・D・カルロス (進行役は川名紀美・元朝日新聞論説委員) 龍谷大准教授



山崎さん 男性に多い「母国に家」

稲葉 カナダの介護現場で働く多くはフィリピン人や黒人だった。そのため介護労働業界のコストダウンが起き、カナダ人が介護労働をしない。そんな現象が日本で起きるのが一番怖い。

上野 日本では労働条件が悪すぎる。人災、政治災害だ。

川名 全産業より月給が10万円も低いという。寿退社は福祉の世界では男性のことか。とてもやっていけず転職する。

上野 4人にお聞きしたい。中江さん、第2、3弾の外国人を迎え入れたいですか。山崎さん、どれくらいの外国人ワーカーが4年後にこの国にいい印象を持つでしょう。カルロスさん、もし今フィリピンの若い女性に「日本に行き

川名 中江さんの施設は、2人のインドネシア人介護福祉士候補者を受け入れている。

中江 やはり言葉の壁がある。細かい言い回しや記録をとるのが難しい。

川名 入国直後の研修を担当した山崎さんの印象は。

山崎 男性は帰国して土地を買って家を建てたという人が多かった。研修中の6カ月で20万円仕送りした人も。10人家族で2年生活できるという。

カルロス フィリピン人が日本で働く目的は、高い介護技術を学ぶため。キャリア形成をして最終的にはアメリカへ行きたい。給料だけではなく、ほかのフィリピン人もいて、生活しやすいから。



働く最終目的地は米 カルロスさん



稲葉 フィリピンの日本人向けリタイアメントビザで話を聞いた日本人男性は「日本には入りたくない施設がない。あっても金がない」と。家族の都合で「安いから行け」というのはよくないけれど、自分の意思なら、よりよく生きられる場所を探すことはいい。

川名 待遇が改善されれば、日本人が幸せになれば、介護される人は幸せになれる。北欧の国々は自国の人材では難しく、スウェーデンではトルコや東欧から介護スタッフに来てもらっている。自国で養成し、国民と同じ公

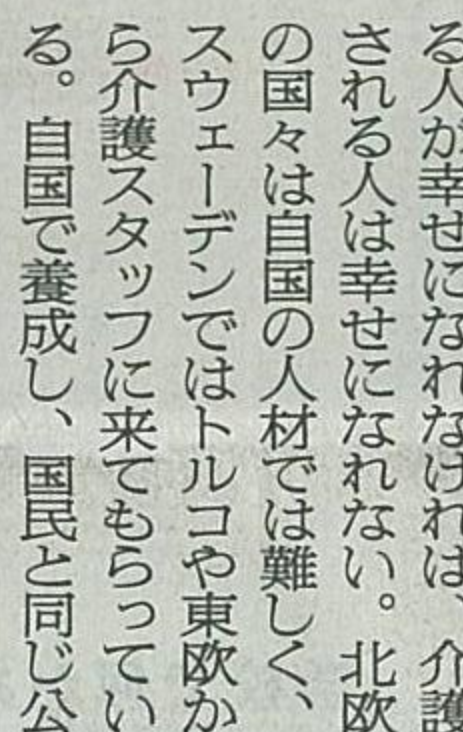
たい」と言われたら勧めますか。稲葉さん、自分が介護を受けるならどの国に行きたいですか。

中江 この仕事はやりがいがある。でも残って働いてもらっても、日本では年金だけで暮らせない。今後の受け入れについては言葉に詰まる。

山崎 ネットは国家試験。言葉が難しく理解できない。日本人でさえ合格率50%のプレッシャーを受け、施設によっては4時間働いて4時間勉強させている。

カルロス (若い女性に日本行きを勧めるかとの質問は) 答えにくい。フィリピンや他の受け入れ先を見ると日本はまだいい。積極的に勧めないが、米国に行けないなら日本はどうかと言う。

稲葉さん 公務員として処遇を



稲葉 フィリピンの日本人向けリタイアメントビザで話を聞いた日本人男性は「日本には入りたくない施設がない。あっても金がない」と。家族の都合で「安いから行け」というのはよくないけれど、自分の意思なら、よりよく生きられる場所を探すことはいい。

川名 待遇が改善されれば、日本人が幸せになれば、介護される人は幸せになれる。北欧の国々は自国の人材では難しく、スウェーデンではトルコや東欧から介護スタッフに来てもらっている。自国で養成し、国民と同じ公

〈インドネシア人の体験談〉



ティラス・パルピさん



ウェルヤナ・オクタフィアさん

日本とインドネシアの経済連携協定(EPA)に基づいて昨夏に来日し、介護福祉士の資格取得をめざす女性2人が、日本語で体験や思いを報告した。ティラス・パルピさん(22)とウェルヤナ・オクタフィアさん(21)は、横浜市の特別養護老人ホームで働き始めてまもなく10カ月になる。

2人は母国の看護大を卒業し、看護師の資格を持って来日した。いま36人の入居者がいるフロアを担当している。それぞれの名前や体調、部屋割りを覚えることから始まり、おむつ替えや入浴介助、ケアプランの作成も担当。

ティラスさんは、施設の先輩たちが日本のやり方を押しつけて、意見を交わしながら教えてくれると話した。「納得して技

術を身につけられるのありがたいです」

また最初は、日本の施設は高齢者をたぐ「預かる場所」だと感じていたという。研修で仕事を4日休んだ後、思いが変わる。「利用者さんから『病気がどと思っただよ。体に気をつけてね。毎日待っているからね』と言われました。日本でも私を心配してくれる人がいる。まるで家族と同じです。利用者さんにも私にも、施設は家なんだと思いました」

2人は日本での留学経験があるため、今回、半年の日本語研修を免除され、EPAのほかの仲間よりも早く現場に入った。

日本語に慣れていないとはいえず、高齢者らとコミュニケーションをとるのは簡単ではない。フィリスさんは「『おし上げ』など敬語の使い方は何とか分かるようになりましたが、読み書きはまだです。日本語を使いこなせるようになりたい」と話した。

一番の心配事は、3年後に日本語で受ける国家試験だ。合格すれば家族と一緒に日本に住んで働きたいの思いも抱くが、「もし失敗すれば帰らなくてはなりません。せっかく日本に来て一生懸命がんばっているのに、努力が(水の)泡になってしまいます」と不安な思いを語った。それでも最後には、「私の選んだ道ですから、自分の責任として、頑張ってください。頑張ります」と締めくくった。

〈外国人介護労働者の現状は〉

日本語教育に格差 京都大特定准教授 安里和晃さん



看護師候補者は出身国で看護の実務経験があり、高度な技術の習得を目指し来日した。だが実際は配膳準備などヘルパーの仕事で、自らの技術の低下を心配する声が多い。日本語も課題で、「仰臥位」など難解な言葉も勉強しようとしているが、教育は受け入れ先に丸投げで、配慮のある施設とない施設で差が出ている。